

未来につなぐ

生産部 統括 山本 知男

また音楽の話です。私の所属しているバンドが今年創立45周年になります。私は創立後2~3年後くらい入るので、それでも40年以上は関わっている事になります。よく続いているなど自分でも感心します。

その記念演奏会を企画していますが、なかなかテーマが決まらない。40年前、30年前、20年前、それぞれの時期にどんな曲が流行っていて何を演奏したかとか、前の記録見ていると曲と同時に当時の思い出も蘇って来ます。昔は何かホンワカした曲が多かったなと言う感じがします。昔は良かった、なんて言っていると年寄りはいくらだってバカにされますが、今は曲の作りが複雑になってるなと感じます。最近の曲なんか特に顕著で、リズムも和音もテンポもコロコロ変わって、ある意味飽きない構成であつという間に終わったみたい感覚になる。で、次は何だろうって、ドンドン次から次と新しいものが出てこない飽きられる。最近巷で流行ってる曲はニューミュージックでもなく、J-POPでもなく、ボカロ系とかで。あんな曲よく歌えるなというのが流れてますが、まさに私なんか真似出来ない。凄いなと感じ興味と期待感湧きますが、その分、懐かしむ感じが無い。私が古い人間なんだろうけど。そんなものも入れながら、じゃ何やろうかって頭悩ませます、一応構想は、今年は未来につなぐをテーマに、昔を懐かしむものも交えて、未来にどんなものを残すか、どんなものを受け継いで行くか、そんな事を出しながら楽しんでいこうと思ってます。

音楽の良さと、この団の良さを感じて貰い、この先50年、60年と繋がって欲しいなと、そしてそんな夢をず〜っとつないで欲しいなと思ってます。

お客様 元気通信 むけ

〇〇さま、こんにちは！お元気ですか？ 今年はどうも二月と三月が入れ替わったような気候でしたね。桜もようやく開花宣言があちこち聞こえてきました。予想も二転三転、服装も半袖でもよいのでは？と思うほど日差しが強くなり暑いと感じた次の日は真冬並みの寒さと極端な気温差に、体調面の管理もなかなか難しかったです。と思います。

さて、春は出会いと別れの季節でもあります。採用難といわれている昨今ではありますが、当社はニューフェイスを二名、この四月一日付で迎えることができました。緊張した面持ちで朝礼で自己紹介とあいさつをする二人に清々しさを感ずりました。社内オリエンテーションを経て実務に入りますが、一日も早く会社に馴染み、仕事を覚えて行ってほしいと願っています。

昨今では一つの会社に長く務めることより転職してキャリアアップしていくことをあたかも推奨するようなコマースシャルが目に入ることがあります。自分自身のやりたいことを求めること、向上心をもって新天地に臨むことは悪いことではないと思いますし、会社も時代の変化に対応せざるを得ないことも事実ですが、このような風潮に、どうしても少し疑問を感じモヤモヤしてしまうのは、古い人間？なのでしょうか。

さて、今回小林製薬の問題が大きく取り上げられています。このことから、どうも麴そのものが健康被害をもたらすのではないかという、誤った拡大解釈からあらぬ方向まで影響を及ぼし始めています。

いずれはそれも沈静化するとは思われますが、忘れてならないのは、日本は長きにわたり「麴文化」を育みこれを食に取り入れ世界でも屈指の長寿大国と言われた国です。

悪影響を与えるものであれば、これほどまでに麴文化が浸透するわけがありません。情報を発信する側はセンサーシヨナルな言葉であればあるほど視聴率が上がるかもしれません。しかしそれによって思わぬとばつちりを受けて余計な手間を取られてしまう側もあるわけです。

今回のことに限りませんが、あらためて情報をうけ取る側の冷静な判断と対応が、非常に大切だと感じさせられました。

スペイン語始めました（初級編）

島貫 修一

最初の1ヵ月は何が何だか分からずに過ぎた。次の1ヵ月は思ったよりも難しいと感じていた。しかし3ヵ月目に入った頃から、講師のスペイン語での問いかけにスペイン語で答えられるようになり、やっと面白くなってきた・・・とは言っても。

ヨーロッパの言語（英語は例外）を学ぶ時に避けて通れないのが、名詞の性別と複雑な動詞の活用。スペイン語の動詞で「食べる」の原型はcomerだが、私が食べる como、君が食べる comes、彼・彼女・あなたが食べる come、私たちが食べる comemos、君たちが食べる comeis、彼ら・彼女たち・あなたたちが食べる comen というようにみんな違う。しかもこれらは直接法現在形だけの話して、直説法は5種類あるし接続法が2種類と命令形もある。試しに数えてみたら comer のつづりは44種類に変化する。英語なら「食べる」は eat ate eaten eating と三人称単数形 eats の5種類だけなのに。

もしも「權入れ」をスペイン語の動詞「mecer 攪拌する」に訳したとする。杜氏さんが部下の蔵人さんたちに「權入れ」を指示する場面は、1番タンクは私（杜氏）が權入れ:mezo、2番タンクはAさん（目の前にいる）が權入れ:meces、3番タンクはBさん（隣の蔵にいる）が權入れ:mece、4番タンクは新入社員達（研修室にいる）が權入れ:mecen、5番タンクは私達全員で權入れ:mecemos になる。スペインでの日本酒作りは無謀だ。

クラスメイトは男性4人女性2人の6人で、年齢は40代から80代まで。授業は1時間半で聞く・話すの会話中心で進める。講師のスペイン語での出題を聞き取り理解し、直ぐに答えを頭の中でスペイン語に組み立て返答する。講師の話しを聞き逃さないように常に緊張感を持ち、脳を全力運転させている。そうすると体温が上がり、特に頭が熱くなっているのがはっきり判る。だから終了時の頭はオーバーヒート状態で、疲れたなあ。

しかしポジティブに考えれば、脳細胞をここまで鍛える（酷使する）外国語学習は脳トレに最適だし、毎回宿題を出されるから家でも脳トレの延長戦をしている。

スペイン語豆知識。牛肉は vaca バカ（VはB音）でニンニクは ajo アホ（JはH音）ということは、牛肉のニンニク炒めはバカの阿ホ炒めになる。

スペイン語中級編の完成は遠い未来になりそう。仕方ないので次回からエッセイの後半に「スペイン語中間報告」を書き入れてごまかそう。

■【マリリン】

生産部 工務 早川 巧都

我が家のペットは7年前に飼い始めた猫です。猫の名前は「マリリン」です。白とグレーのハチワレです。祖母が猫を飼いたいと言い飼い始めました。飼い始めた時はまだ目が開いていなく、母猫がいなかったのでミルクを飲ませることや、排便を促すことなどを家族で調べながら育てました。子猫の時は、家の至る所で爪とぎをしていてソファなどがボロボロになって大変でした。

我が家のマリリンの性格は、寂しがり屋で食いしん坊です。祖父と祖母が出掛け一階に誰もいなくなって暫くすると二階まで聞こえる声で鳴いています。夕食時には、足元で動き回ったり、足を噛んだりしてご飯を催促してきます。かなり強めに噛むので足から出血することがよくあります。

マリリンは私が家に帰る時は、玄関で待っていて私を出迎えてくれます。それが私にとっての癒しになっています。

私は、ペットを飼うのは色々大変だと思っていました。ですが、大変なのは最初だけで、ご飯の除けばとってもいい子なので手間がかかりませんでした。

今では、家族みんなを癒してくれるかけがえのない存在で大切な家族です。



我が家のペット

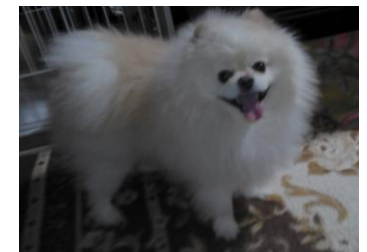
■【小太郎】

生産部 工務 馬場 翼

我が家の愛犬は小太郎と言います。生後2ヵ月で家に来て手の平に乗る程小さいサイズだったため祖母が一目見て名付けました。しかし、名前に反してすくすく育ち現在では2歳で約5kgまで成長しています。犬種もボメラニアンとチワワのミックスということもあり、両親とも2~3kgと聞いていましたがそれ以上に大きくなりました。

飽きっぽく気まぐれな性格をしており、おもちゃで遊んでいても急に興味を失ったり自分が撫でてほしい時じゃないとすぐにどっか行ったりしてしまいます。また外に出るのが苦手散歩には行きませんが、運動不足にならないよう家の中で走らせたり遊ばせて運動させたりすることを心掛けています。

そんな自由気ままな彼ですが、最近は寂しがり屋な一面も多く顔を覗かせるようになってきました。私が出張明けで数日ぶりに家に帰ってくると撫でろと言わんばかりに丸一日べったりくっついてくるのです。いつもはある程度撫でるとふらっと立ち去る彼のそんな姿を見て私は元気と癒しを貰っています。



『恥の多い生涯を送ってきました』。

戸高専一年生の秋、寮の自室で同級生 3 人と酒盛りしているところを監督教官に踏み込まれあえなく御用。外泊届が出されて無人の部屋の消灯時間を過ぎてても騒々しいわけですから不審に思われて当然です。

下された処分は無期限停学でした。沙汰を言い渡される学長室には半年前まで中学生だった学生 4 人が横一列に並び、それぞれの後ろに両親が並ぶよう言われました（私のところは片親だったので母親ひとり）。訓告が読み上げられた後、控室に下がったところで『イク子は激怒した』わけです（註：イク子は私の母の名前）。激怒したのは私が未成年で酒を飲んだことに対してではなく、会社の大事な会議に穴を開けられたこと、に対してでした。母は当時ちょっとした化粧品メーカーの仙台支店長か何かのポジションでした。

『津軽』地方の伯母の家で謹慎生活を送り、毎日反省文を書いては学校に郵送する生活を二週間ほど送ったように記憶しています。

多少道を踏み外したり寄り道したことはあっても、『人間失格』というようなことはなかったのがせめてもの救いでしょうか。

そんな私も歳を重ね、大学卒業後は清酒業界に就職。清酒業界に 11 年、その後新洋技研工業に 15 年ちょっと籍を置き、そしてこの度、家の事情で本職を辞し郷里・青森に帰ることになりました。

当社に入社したのが 2008 年の 12 月。本稿を書き始めたのが 2009 年の 7 月号から。

神田編集長の真綿で首を絞めるような原稿催促にめげることなく、14 年半の連載？をこうして終えられるのは不思議な気持ちです。

半分リップサービスとは思いますが、訪問したお客様から「成田さんの文章、毎回楽しみにしてるよ」とのお言葉は素直に嬉しく思いましたし、拙文に対する反響のメールやお手紙をいただいたことは忘れられない思い出です。

『惜別』の思いは尽きませんが、ここで筆をおくことにしましょう。

皆様とまたどこかでご縁が繋がりますことを願いつつ、『グッド・バイ』。